

先週はペンテコステの礼拝でした。

舌のようなものが、炎のように分れて現れ、ひとりびとりの上にとどまり、弟子たちは炎の舌により、聖霊により、習いもしない外国の言葉で神様の偉大な御業をほめたたえて留まるどころなく賛美し続けました。

まさにイエス様の御言葉の成就でした。

「ただ、聖霊があなたがたにくる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」(使徒 1:8)

聖霊により、力を受けて、あらゆる障害が取り除かれ、国語、文化、人種、価値観を超えて、わたしの証人、イエス・キリストの証人として世界に出で行くこと、その宣教の幕が切って落とされた瞬間でした。

イエス様の証人となる。このことが弟子たちのミッション、使命でした。

当時のユダヤ教の中では、自らを神になぞらえて語るということは、神への冒瀆でした。神はただお一人だからです。そしてイエス様は十字架につけられましたが、それは私たちの罪の贖いのため、主が自ら引き受けられたことでした。

ヨハネ 19:17 イエスはみずから十字架を背負って、されこうべ（ヘブル語ではゴルゴダ）という場所に出て行かれた。

ヨハネ 10:17 父は、わたしが自分の命を捨てるから、わたしを愛して下さるのである。命を捨てるのは、それを再び得るためである。

10:18 だれかが、わたしからそれを取り去るのではない。わたしが、自分からそれを捨てるのである。わたしには、それを捨てる力があり、またそれを受ける力もある。これはわたしの父から授かった定めである」。

ただ一人の神の教え、ということではなく、御子も聖霊も父なる神様と共に万物の初めの時、創造の時から共に働いておられたということが聖書には書いてあります。そして時至って神様は御子を苦難のしもべとして、世の罪を取り除く神の小羊として

イザヤ 9:2 暗やみの中に歩んでいた民は大いなる光を見た。暗黒の地に住んでいた人々の上に光が照った。

9:3 あなたが国民を増し、その喜びを大きくされたので、彼らは刈入れ時に喜ぶように、獲物を分かつ時に楽しむように、あなたの前に喜んだ。

9:4 これはあなたが彼らの負っているくびきと、その肩のつえと、しえたげる者のむちとを、ミデアンの日になされたように折られたからだ。

9:5 すべて戦場で、歩兵のはいたくつと、血にまみれた衣とは、火の燃えくさとなって焼かれる。

9:6 ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、「靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君」ととなえられる。

イザヤ 53:1 だれがわれわれの聞いたことを／信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか。

53:2 彼は主の前に若木のように、かわいた土から出る根のように育った。彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、われわれの慕うべき美しさもない。

53:3 彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。

53:4 まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。

53:5 しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。

53:6 われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。

53:7 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。

まことに、旧約聖書にもイエス様はおられました。そしてそのイエス様はいったいどういってお方なのか。神の遣わされた御使いなのか。

黙示録 19:10 そこで、わたしは彼の足もとにひれ伏して、彼を拝そうとした。すると、彼は言った、「そのようなことをしてはいけない。わたしは、あなたと同じ僕仲間であり、またイエスのあかしびとであるあなたの兄弟たちと同じ僕仲間である。ただ神だけを拝しなさい。イエスのあかしは、すなわち預言の霊である」。

それとも、私たちがひざまずいて礼拝を捧げるべき神様なのか、御子についてヘブル人、ユダヤ人が知るべきこと、イエス様の証しが第1章には繰り返し描かれています。

ヨハネ 20:27 それからトマスに言われた、「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手をのぼしてわたしのわきにさし入れてみなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい」。

20:28 トマスはイエスに答えて言った、「わが主よ、わが神よ」。

20:29 イエスは彼に言われた、「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである」。

1:1 神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、

2 この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。

むかしは、預言者たちを通して神様は語られました。しかし今、終わりの時には御子によって語られたとあります。

神様は、終わりの時にあたってついに神の御子ご自身により私たちにメッセージを発信されました。ちょうどこのたとえ話にある通りです。

ルカ 20:9 そこでイエスは次の譬を民衆に語り出された、「ある人がぶどう園を造って農夫たちに貸し、長い旅に出た。

20:10 季節になったので、農夫たちのところへ、ひとりの僕を送って、ぶどう園の収穫の分け前を出させようとした。ところが、農夫たちは、その僕を袋だたきにし、から手で帰らせた。

20:11 そこで彼はもうひとりの僕を送った。彼らはその僕も袋だたきにし、侮辱を加えて、から手で帰らせた。

20:12 そこで更に三人目の者を送ったが、彼らはこの者も、傷を負わせて追い出した。

20:13 ぶどう園の主人は言った、『どうしようか。そうだ、わたしの愛子をつかわそう。これなら、たぶん敬ってくれるだろう』。

20:14 ところが、農夫たちは彼を見ると、『あれはあと取りだ。あれを殺してしまおう。そうしたら、その財産はわれわれのものになるのだ』と互に話し合い、

20:15 彼をぶどう園の外に追い出して殺した。そのさい、ぶどう園の主人は、彼らをどうするだろうか。

20:16 彼は出てきて、この農夫たちを殺し、ぶどう園を他の人々に与えるであろう」。人々はこれを聞いて、「そんなことがあってはなりません」と言った。

20:17 そこで、イエスは彼らを見つめて言われた、「それでは、『家造りらの捨てた石が／隅のかしら石になった』と書いてあるのは、どういうことか。

20:18 すべてその石の上に落ちる者は打ち砕かれ、それがだれかの上に落ちかかるなら、その人はこなみじんにされるであろう」。

20:19 このとき、律法学者たちや祭司長たちはイエスに手をかけようと思ったが、民衆を恐れた。いまの譬が自分たちに当てて語られたのだと、悟ったからである。

20:20 そこで、彼らは機会をうかがい、義人を装うまわし者どもを送って、イエスを総督の支配と権威とに引き渡すため、その言葉じりを捕えさせようとした。

2 この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。

この終わりの時。

1 ヨハネ 2:17 世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。

2:18 子供たちよ。今は終りの時である。あなたがたがかねて反キリストが来ると聞いていたように、今や多くの反キリストが現れてきた。それによって今が終りの時であることを知る。

反キリストが多くあらわれ、神のみ旨に逆らうこの時。しかしこの遣わされた救い主イエス様の十字架の贖いのもとにしか、神の救いはないということを知らせるために、心をかたくなにせず、それを信じるようにと、ヘブル人たちに宛てて、イエス様を神の御子、救い主と知らない方々に宛ててこの手紙は書かれました。

使徒 4:11 このイエスこそは『あなたがた家造りらに捨てられたが、隅のかしら石となった石』なのである。

4:12 この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」。

神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られました。神様はこの御子イエス・キリストをご自身の相続者とされました。また神様はこの御子と共に働かれ、もろもろの世界を創られました。

ヨハネ 1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

1:2 この言は初めに神と共にあった。

1:3 すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。

1:4 この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。

1:5 光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。

そして驚くべきことに、神様はキリストと共に、キリストの救いに預かる私たちをも、神の共同相続人にしてくださいました。イエス様に感謝いたします。

ローマ 8:14 すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である。

8:15 あなたがたは再び恐れをいだかせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分を授ける霊を受けたのである。その霊によって、わたしたちは「アバ、父よ」と呼ぶのである。

8:16 御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。

8:17 もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。

3 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。

御子は神の栄光の輝き。神の本質の真の姿。その力ある御言葉をもって万物を保っておられます。

マルコ 4:39 イエスは起きあがって風をしかり、海にむかって、「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになった。

御子は神の栄光の輝き。神の本質の真の姿。その力ある御言葉をもって万物を保っておられます。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。

この言葉は、神以外の誰を指す言葉でしょうか。

4 御子は、その受け継がれた名が御使たちの名にまさっているので、彼らよりもすぐれた者となられた。

5 いったい、神は御使たちのだれに対して、／「あなたこそは、わたしの子。きょう、わたしはあなたを生んだ」／と言い、さらにまた、／「わたしは彼の父となり、／彼はわたしの子となるであろう」／と言われたことがあるか。

いったい、神は御使たちのだれに対してこのようにイエス様に語られるように言われたことがあるかと、4節と13節に繰り返し語られています。

イエスという方はただの御使いだ、神ではない。そう考え、イエス様を冒涇者として排斥した多くの指導者たち、ユダヤ人たち。そしてイエス様をただの歴史上の偉人、人に過ぎない存在と考える現代科学と思想の中にある全ての人に対して、このヘブル書の1章は語り掛けます。

「あなたこそは、わたしの子。きょう、わたしはあなたを生んだ」／と言い、さらにまた、
／「わたしは彼の父となり、／彼はわたしの子となるであろう」

6 さらにまた、神は、その長子を世界に導き入れるに当って、／「神の御使たちはことごとく、彼を拝すべきである」／と言われた。

イエス様は神様のひとり子であり、長子です。御使いとは異なる存在です。神の御使たちはことごとく、彼を拝すべき、神である存在です。

ただ神の子という場いいものを、どうして「長子」とここで呼ばれるのでしょうか。

それは驚くべきことに、私たちも御子を長子とした家族として頂いたゆえでした。

ローマ 8:28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。

8:29 神はあらかじめ知っておられる者たちを、更に御子のかたちに似たものとしようとして、あらかじめ定めて下さった。それは、御子を多くの兄弟の中で長子とならせるためであった。

8:30 そして、あらかじめ定めた者たちを更に召し、召した者たちを更に義とし、義とした者たちには、更に栄光を与えて下さったのである。

8:31 それでは、これらの事について、なんと申すか。もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。

7 また、御使たちについては、／「神は、御使たちを風とし、／ご自分に仕える者たちを炎とされる」／と言われているが、

8 御子については、／「神よ、あなたの御座は、世々限りなく続き、／あなたの支配のつえは、公平のつえである。

9 あなたは義を愛し、不法を憎まれた。それゆえに、神、あなたの神は、喜びのあぶらを、／あなたの友に注ぐよりも多く、あなたに注がれた」／と言い、

10 さらに、／「主よ、あなたは初めに、地の基をおすえになった。もろもろの天も、み手のわざである。

11 これらのものは滅びてしまうが、／あなたは、いつまでもいますかたである。すべてのものは衣のように古び、

12 それらをあなたは、外套のように巻かれる。これらのものは、衣のように変るが、／あなたは、いつも変ることがなく、／あなたのよわいは、尽きることがない」／とも言われている。

天も地も、これらのものは服のように古び、滅びます。しかし私たちの主イエス・キリストはいつも変わることなく、その教えも古び、時代遅れになったり、すさんでしまうことがなく、その齢は尽きることがありません。主も、主の教会も、そして私たちも賞味期限切れになって滅びる事はありません。

イザヤ 40:6 声が聞える、「呼ばわれ」。わたしは言った、「なんと呼ばわりましょうか」。「人はみな草だ。その麗しさは、すべて野の花のようだ。

40:7 主の息がその上に吹けば、草は枯れ、花はしぼむ。たしかに人は草だ。

40:8 草は枯れ、花はしぼむ。しかし、われわれの神の言葉は／とこしえに変ることではない。

40:9 よきおとずれをシオンに伝える者よ、高い山にのぼれ。よきおとずれをエルサレムに伝える者よ、強く声をあげよ、声をあげて恐れるな。ユダのもろもろの町に言え、「あなたがたの神を見よ」と。

13 神は、御使たちのだれに対して、／「あなたの敵を、あなたの足台とするときまでは、／わたしの右に座していなさい」／と言われたことがあるか。

14 御使たちはすべて仕える霊であって、救を受け継ぐべき人々に奉仕するため、つかわされたものではないか。

御子と御使いとは全く異なる存在です。

しかし神様は、私たち信ずる者たちを、イエス様のいのちとそこご身分に限りなく与かるものとしての特権をお与えになりました。

ヨハネ 1:12 しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。

1:13 それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。

ヨハネ 3:16 神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

3:17 神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。

私たちがまた、救いと光栄と栄誉を頂いたものとして、主に仕え、主をのみ礼拝し、御使いと共に救を受け継ぐべき人々に奉仕するため、遣わされたいと願うのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

あなたが私たちのことを理解し、信頼し、私たちに励まし、使命に生かし、互いに愛し合い、教会を築き上げていく務めの中に励ましてくださいますことをありがとうございます。困難は多いですが、主に従いゆくことは私たちの本当の生きがいですから、ついて行くべき方との出会いに感謝いたします。今週もイエス様と共に、御心のうち、祝福の内を行かせてください。私たちの祈りにお答えくださることを信じます。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン